東北版

このページは、東北地方のできごとを中心に報道いたします。団体、企業、職場の明るいニュース、話題、美事善行などを東北版編集デスクまでどしどしお知らせ下さい。

信頼とまごころの技術集団
株式会社 東北装美
〒963-8026 郡山市並木3丁目5－3
☎〇二四九－二四－二五一五（代）

掲載された原稿の著作権はビル新聞社に帰属します。

無事故達成企業21社を表彰

福島県ＢＭ協会　労働安全衛生大会開催

福島県ＢＭ協会の労働安全衛生大会

㈱福島県ビルメンテナンス協会（飯澤建八郎会長）は10月26日、ビックパレットふくしま（郡山市）で労働安全衛生大会を開催した。大会では、1年間労災無事故を達成した会員企業21社を表彰したあと、福島労働局と福島産業保健推進センターから講師を招き講演を行った。

飯澤会長

冒頭あいさつに立った飯澤会長は「私達の業務は、お客様に快適な環境を提供するのが主な仕事です。しかし、ちょっとした油断やミスで労働災害を起こしてしまうと、お客様の信頼を失ってしまいます。しかも労災を受けた本人はもとより、家族や会社、周囲の方々に与える、物心両面の苦痛や損失は、計り知れないものがあります。そうしたことが起こらないようビルメンテナンス企業各社に是非とも労働災害ゼロを最大の目標にして取り組んでいただきたい。また、本日の講演から学んでいただきますようお願いします」とあいさつした。

芳賀委員長

続いて芳賀潔社会労災委員長が「労災を起こすと家族関係にも影響を及ぼすなど、悲惨な状況になります。今日の講演をしっかりと受け止めて、労災ゼロをめざして、現場教育に取り組んでいただきたい」と要望した。

舞木課長補佐

講演に先立ち、1年間労災無事故を達成した会員企業21社を紹介し、代表して二瓶光正氏（㈱サンライズ）に賞状を贈った。

講演は、福島労働局の舞木宏守労働基準部安全衛生課課長補佐が「労働災害発生の現況及び主としてビルメンテナンス業について」、福島産業保健推進センターの山屋佐智子産業保健相談員が「職場の安全と健康管理について」をテーマに行った。

舞木課長補佐は「多業種に比べ、ビルメンテナンス業の労働災害は数値が高いので注意が必要である」と指摘。特に転倒や転落・つい落の災害が多いことをあげ、現場教育の徹底を要請した。

山屋保健相談員

また、山屋保健相談員は、働く人のちょっとした変化に気づくためのメンタルヘルス不調者の早期発見と適切な対応について語り、日常の労働衛生管理の大切さを再認識してほしいと要望した。

労災無事故1年達成企業は次の通り。

▽㈱会津ビルサービス▽㈱アサヒビルメンテナンス▽あずま総合開発㈱▽㈱アネシス福島営業所▽㈱エスエフ太陽興産▽㈱角栄▽協栄美装㈱郡山支店▽㈱サンライズ▽㈱シービーエス福島営業所▽㈱タイセークリーン▽㈱太陽メンテナンス▽東京美装興業㈱いわき出張所▽㈱東日▽東邦土地建物㈱▽東陽産業㈱▽同和興業㈱郡山営業所▽㈱日本オイラービルサービス▽㈱ビックサンライズ▽㈱福島第一商事㈱▽明和工業㈱▽八巻興業㈱

受賞の代表者に賞状が手渡された

ビルメンテナンス

マンション管理員の資質向上を

管理員検定協会が設立記念フォーラム

日下部理事長

一般社団法人マンション管理員検定協会（日下部理絵理事長）は10月30日、文京区シビックホール（東京都文京区春日）で設立記念フォーラム「管理業界の実情とマンション管理のあるべき姿～現場最前線！マンション管理員に求められるもの～」を開催した。

同協会は、マンション管理員の質を高めることを目的に設立。マンション管理の質は管理員に大きくゆだねられているとして、管理の質の向上を図るため来年7月31日に「マンション管理員検定試験」を全国5都市で実施する。

フォーラムでは、神山浩子氏の司会進行で開会。宮田理事が同協会の設立経緯について説明した後、日下部理絵理事長が「管理業界の実情とマンション管理員に求められるもの」と題する基調講演を行った。

同理事長は、「中古市場の活性化、リノベーションや投資・建替えが増えたことにより新築マンションの供給は減少、マンションを取り巻く環境は厳しい。管理組合の9割は管理会社に委託しているが、受託戸数の多い企業上位15社が全戸数の半分を、上位50社になると全体の67㌫を管理しており、競争の少ない独占市場型になっている」とマンションを取り巻く環境や管理会社・組合の現状を話した後、マンション管理適正化法施行規則の一部改正について説明。「より安全で快適に暮らすために価格ではなく管理の質が求められる。現在の管理員に求められる知識は多様化・高度化し専門性が求められるようになっている。また、管理員は会社の顔というだけではなく、マンションの顔であり、管理員の資質向上は管理の質向上につながり、マンション管理全体の底上げになるのではないかと考えます」とのべた。

マンション管理員検定協会設立記念フォーラム

休憩を挟んでパネルディスカッションに移った。日下部理事長がコーディネーターとなって、パネラー4氏が講演。

マンションコミュニティ研究会代表の廣田信子氏が「今、マンションに求められている～終の棲家の安心居住のために～」、マンション住民の目線に立って～マンション管理士・住民の両立場から見えるもの～」、税理士の中山美穂氏が「マンション管理員雇用への注意点～年金と税金の関係」、東京都職業訓練校マンション維持管理科専任講師の小川正則氏は「マンション管理員教育の現場から～求められる意識の相違～」について講演。その後、活発な意見交換が行われた。

最後にマンション管理士・司法書士の宮田浩志氏が、来年7月に実施するマンション管理員検定の案内、検定の活用と勉強方法について説明しフォーラムを終了した。

厨房防火対策テーマに
建築物環境衛生セミナー開く
厨房排気設備診断士創設へ

JADCA

一般社団法人日本空調システムクリーニング協会（通称JADCA、大廻和彦会長）は10月21日、ビルメンテナンス会館で「22年度建築物環境衛生セミナーinTokyo」を開催し、厨房防火対策の強化と協会認定の新資格「厨房排気設備診断士」（仮称）の創設について解説した。

東京消防庁管内では、毎年35～45件の厨房ダクトに関連した火災が発生。特に焼肉店の無煙ロースターによる火災事故が増えている。このためセミナーは、会員企業だけでなく大手焼肉チェーンのリスク管理担当者や飲食店経営者も参加し行われた。

はじめに、協会厨房排気設備清掃管理検討委員会委員長でもある倉渕隆東京理科大学教授（工学博士）が「海外の厨房メンテナンス対策の実情とわが国の課題」について講演した。

欧米では厨房排気設備のメンテナンスに対する法規制があり、行政、民間、店舗責任者の間に明確な役割分担、責任分担が存在す